

# 知的障害教科「生活科（小学部）」と 通常教育学習指導要領の連続性の検討 I

○本間貴子                      森澤亮介                      今島陽平                      米田宏樹  
(国士舘大学) (筑波大学附属大塚特別支援学校) (茨城県立伊奈特別支援学校) (筑波大学人間系)  
KEY WORDS: 学習指導要領,    生活科,    通常の教育との連続性

## I. 目的

中央教育審議会答申では、平成 29～31 年の学習指導要領改訂に伴い、通常小学校等の各学校の段階全ての教科等において、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき各教科の目標や内容が整理されたことを踏まえ、知的障害特別支援学校学習指導要領の各教科等の目標や内容を小学校等の各教科等の目標や内容との連続性・関連性を整理する必要があると指摘されている(文部科学省, 平成 30 年, 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説)。

本研究は、知的障害特別支援学校学習指導要領(以下; 知的障害学習指導要領)の小学部 1 段階から 3 段階に設けられている教科「生活科」(以下; 知的障害生活科)の内容を通常教育小学校学習指導要領(以下; 小学校学習指導要領)との関連から分析した。本稿(研究 I)ではア基本的生活習慣、イ安全、ウ日課・予定、エ遊び、オ人との関係の分析結果を報告する(研究 II ではカ～シを検討)。

## II. 方法

分析の資料は、平成 29～30 年告示の「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」ならびに解説、「小学校学習指導要領」ならびに解説である。知的障害生活科の構成内容のうちア基本的生活習慣、イ安全、ウ日課・予定、エ遊び、オ人との関係について、通常教育の生活科・家庭科・体育科・社会科・理科・特別活動・道徳科との関連性を検討した。さらに、マトリックス表(試案)を作成し、連続性・関連性の構造を把握し、知的障害教育において連続性を説明する上で生じる課題を考察した。中点(・)で区切られているものや複数の文言が含まれている表題については文言を分割し一部でも含まれているものについて含まれているとした。一部でも含まれる場合は、文言の有無・共通性があるとして示した。指導目的と指導内容の共通点・相違点については筆者ら 4 名で検討した。

## III. 結果

### 1. 知的障害生活科と小学校生活科の目標・構成内容

知的障害生活科と小学校生活科の大目標および三つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」は、僅かに文言が異なる部分があるが、ほぼ一致している。しかし、その下位の目標設定の構造と構成内容は異なる。知的障害生活科は各段階の目標を三本の柱毎に目標を立て、「ア基本的生活習慣～シものの仕組みと働き」の 12 項目の構成内容を組んでいる。それに対し小学校生活科は学年別の目標を設定しておらず、1・2 年に共通する目標を、構成内容である①学校、家庭及び地域の生活に関する内容、②身近な人々、社会および自然と関わる活動に関する内容、③自分自身の生活や成長に関する内容の下位の 9 つの構成内容別に設けている。目標設定と内容構成が異なるため、内容の連続性を検討する際は生活科の単純な比較ではなく他教科を含め分析する必要がある。

### 2. 知的障害生活科の内容構成と小学校学習指導要領とのつながりの検討

マトリックス表(Table)では、知的障害生活科の内容ア～オの項目について、小学校学習指導要領の第 2 章各教科～第 6 章特別活動と照らし合わせ、共通する文言の有無・指導目的・内容の共通性について検討した。

【Table マトリックス表】

	ア基本的生活習慣	イ安全	ウ日課・予定	エ遊び	オ人との関わり
特別活動	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅰ
体育	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅰ
家庭	Ⅰ	Ⅰ			
生活	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅰ
社会		Ⅰ		2	
理科		Ⅰ			
道徳	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅰ
1…学習指導要領に同じ文言がある					
2…解説に同じ文言がある					
…指導目的・指導内容に共通点がある					

**ア基本的生活習慣**；知的障害生活科に「用便・食事・清潔・身辺処理」等の基本的生活習慣スキルが含まれるが、小学校学習指導要領では、ルールやマナーの理解(特別活動)、基本的生活習慣の獲得が健康へとつながる理解(体育)、規則正しい健康的な生活の重要性の理解(生活)等の「理解」を目的とする内容が主である。

**イ安全**；身の回りの生活の安全から公共の場での安全までを取り扱う点は類似するが、知的障害生活科では、「教師と一緒に取り組む」「教師に援助を求めながら取り組む」という記載があった。

**ウ日課・予定**；相当する記載はなかった。

**エ遊び**；知的障害生活科では、遊びを通して友達と関わる楽しさを味わったり、役割や約束・ルールを学んだり、遊具の片付けを学ぶ内容が含まれる。小学校学習指導要領の特別活動と道徳には「遊び」という文言はないが、知的障害生活科遊びに含まれる「きまり」・「約束」が含まれた。

**オ人との関係**；知的障害生活科では、挨拶や接し方・電話の応対等の具体的なスキルについて示されており、小学校学習指導要領では生活科と道徳科に挨拶や礼儀が示されている。知的障害生活科のほうが具体的である。

## IV. 考察

知的障害生活科と小学校生活科は大目標が共通するが、内容は、単純に小学校生活科と繋がるのではなく、特別活動・体育・家庭・生活・社会・道徳にも共通する文言・内容がある。しかし、詳細を比較すると知的障害生活科の内容である基本的・初歩的な技能の獲得が小学校学習指導要領では扱われていないなど、知的障害生活科の独自性も見られた。本稿での比較は限定的であるため、今後はより多くの教科を中学校以降も含めて分析する必要がある。知的障害教科の独自性をさらに分析することで、引き継いでいくべき基準のあり方を検討することが今後の課題である。

(文献) 平成 29 年～30 年公刊の各学習指導要領と解説を用いた。

【付記】本研究は JSPS 科研費 21K02714;18H01037 の助成を受けた。(HOMMA Takako, MORIZAWA Ryosuke, IMAHATA Yohei, YONEDA Hiroki)